

世界各国に見る CPI レベル＝インフレーションに関する分析と総合 － 20～21C.両世紀に跨るマクロ的変遷状況と日銀金利政策の独自性 －

IOND University Japan / Hawaii 清水 徹

一国家機関にとっては、「インフレーション (Inflation)」という経済現象は、「デフレーション (Deflation)」同様に、たいへんに重要な一ファクター (Factor) となっている。我国日本をはじめ、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス等の先進資本主義諸国にとっては、より一層の経済発展のためには、物価 (特に、消費者物価<CPI>、卸売物価<WPI>) を安定化させることは、とても望ましいことであるが、発展途上諸国にとっては、むしろ、先進資本主義諸国より以上に、物価の安定化を望んでいることに疑いの余地はない。今後、経済のグローバル化の加速に伴って、世界各国に見るインフレ率の変動に関する問題は、一国のみの問題ではなくなる Factors が益々増加することが推測される。

本研究の目的は、Money-Supply、国内需要、そして、CPI 等の変動を統計上分析することであり、また、その分析の諸結果を総合し、かつ、インフレーションの収束化傾向 (すなわち、世界の 6 地域、20 世紀の末) を明示することにある。第二の目的は、20 世紀末における世界 113 ヶ国、各国毎に見るインフレーションの諸原因を探求することにある。第三の目的は、物価の推定表式を発見することにある。第四に、21 世紀に入ってからの 5 年間における我国と先進諸国の CPI 変動に関する分析と総合を行うことにある。

主たる研究方法としては、世界各国の Money-Supply に関する実証的なデータによる文献的研究と世界各地域の代表的国家を訪問し、現地の人々の生活に肌で触れる実体験的方法も採用した。また、多視角的・総合的な分析による研究方法にも拠った。

導かれた結論 (概論) としては、次のようである。

1. 世界の平均インフレーション率は、収束の傾向にある。(世界各国全般)
2. 20 世紀末、我国は、先進国の中では独自に、1990 年代以降、3 ステップを踏みつつ、巧みな金利政策によって、物価の安定化に成功している。(日本)
3. 我国の物価水準は、21 世紀に入ってからは、ゼロコンマ(%)単位で低下し続け、物価の安定化は進行している。(日本)
4. インフレ要因と物価推定表式に関しては、配布資料や本論文を参照されたい。
5. 21 世紀に入り、特に我国にあっては「デフレ時代」とは言いつつも、Money-Supply は増加を続ける<金融と実物経済の乖離>。(日本、世界の先進諸国)

【参考文献】

1. 清水徹『国際金融論 -生活経済学のアプローチ-』東京図書出版会、2001 年。
2. IMF, International Financial Statistics, 1990-2005.
3. UN, Monthly Bulletin of Statistics, 1978-2005. (他)